

平成 26 年 (2014 年) 4 月 29 日 (火) 15:00~/国連本部
NPT 再検討会議第 3 回準備委員会 NGO セッション

NGO セッション 平和首長会議会長・広島市長スピーチ

エンリケ・ロマン・モレイ議長並びに御列席の各国政府代表、NGO 関係者の皆様、広島市長の松井一實です。被爆地広島の市長として、また、平和首長会議の会長として、スピーチさせていただきます。

69 年前の 1945 年 8 月 6 日午前 8 時 15 分、一発の原子爆弾が広島上空 9,600m の地点から都市住民の上に投下され、43 秒後高度 600m の地点で爆発しました。当時広島にいた人の数は 35 万人、その大部分は、年端もいかない子供や学生、お年寄りを含む民間人でした。核分裂の瞬間、大量の放射線が放出されました。長崎大学原爆後障害医療研究所の研究結果によると、1 回に 7,000 ミリシーベルトの放射線を照射されると 100% の人が死亡するとの報告が出ています。広島では、爆心地から 100m 地点で致死量の 60 倍以上に当たる 435,000 ミリシーベルトもの放射線が人々に浴びせられました。熱線は極めて強烈で、周辺の地表面は 3,000 度から 4,000 度に達しました。爆心地では最大風速 440 m/秒の強烈な爆風が発生し、それは放射状に広がり、約 10 秒後にはほぼ市街全域に到達しました。核爆発による膨大なエネルギーの放射線、熱線、爆風が広島の街を一举に襲い、ことごとく破壊し尽くしたのです。

被爆当日だけで何万人という人が死亡し、翌日、2 日後、1 か月後と多くの人々が次々に息絶えていきました。たった一発の爆弾は、建物の 92% に当たる 7 万戸を倒壊・焼失させ、山林や原野などを除く市域面積の 40% を焦土と化し、1945 年末までに人口の 40% に当たる 14 万人もの尊い命を奪ってしまったのです。

原爆は、かろうじて生き残った人々の人生も一変させました。目の前で業火に焼け死んだ家族を救えなかった苦しみ、家族や住まいを失った孤児、放射線障害によって就職や結婚にも困難を伴う生活。被爆者は、どれほど辛い涙を流し続けてきたことでしょうか。白血病やがんなどの後障害は、被爆 69 年後の今なお多くの被爆者の健康を脅かし続けています。

当時の為政者の手によって使用された核兵器は、無差別に罪もない多くの市民の命を奪い、生き残った人々の人生をも一変させ、終生にわたり心身をさいなみ続けています。核兵器は非人道兵器の極みであり、「絶対悪」です。原爆の地獄を知る被爆者は、為政者が「絶対悪」を二度と使用することのないよう、その廃絶に挑んできています。

冷戦終了後四半世紀たった今も世界にはなお17,000発余りの核弾頭があります。私たちは未だに核兵器の潜在的恐怖の下にいます。核兵器の廃絶に向け、広島市は、平和首長会議を構成する世界158の国・地域の6,000の加盟都市とともに、国連や志を同じくするNGOなどと連携して、2020年までの核兵器廃絶を目指し、「核兵器禁止条約」の早期実現に全力を尽くします。

平和首長会議は、昨年10月の国連総会第一委員会における共同声明の発表や今年2月メキシコ・ナジャリットにおける核兵器の人道的影響に関する第2回国際会議の開催など、核兵器の非人道性に焦点を当てた国家レベルでの議論が進んでいることを歓迎します。また、本年末にウィーンで開かれる核兵器の人道的影響に関する第3回国際会議の成功に向け共に努力したいと考えます。こうした中、今月「軍縮・不拡散イニシアティブ」外相会合が広島で開催されました。核兵器廃絶は一刻も早く実現すべき課題です。平和首長会議は、その達成への方法について様々なアプローチ・考え方があり、それらが相互補完的であることを認識しています。

長期的に持続可能な「核兵器のない世界」を実現するには、相互不信を前提とし、「抑止力」という核兵器使用の脅しとそれに伴う言語に絶する恐怖に依存する安全保障体制に替えて、同じ人類としての帰属意識に根差した共同体意識が共有される新しい社会作りが不可欠です。2009年4月、アメリカのオバマ大統領は、プラハでの演説において「核兵器のない世界」という人類の進むべき道を明確に示されました。また、同年11月の日本訪問を前に、広島・長崎の記憶は世界の人々の心に刻まれており、任期中に被爆地を訪問できれば名誉であると述べられました。オバマ大統領には、是非広島・長崎を訪問していただき、被爆の実相に直接触れ、核兵器廃絶に向けたゆるぎない一歩を被爆地から世界に踏み出していただきたいと思えます。

本日このセッションには、「核廃絶！ヒロシマ・中高生による署名キャンペーン」に取り組んでいる高校生8人の皆さんも参加してくれています。平和首長会議は、「ヒロシマ・ナガサキ」の思いを新しい時代の新たな発想で未来を開く若い世代の人々に伝える取組を進めます。そして、世代を超えた世界中の多くの市民、NGO等と連携し、「核兵器禁止条約」の実現を懸命に後押ししたいと考えています。

存命のうちに核兵器廃絶を見届けたいと心から願う被爆者の平均年齢は78歳を超えました。国境も世代も超えた幅広い市民社会の核兵器廃絶への願いの結集に私たちも全力で取り組みます。皆様のリーダーシップにより、一日も早い核兵器廃絶が実現することを願ってやみません。

御清聴ありがとうございました。